

新県立中央病院 3月6日開院

岩手県立中央病院
盛岡市上田一丁目4-1
☎ (0196) 53-1151



菊池芳壽中央病院開設準備室主幹

「3月3日中央病院大移動、——余白のないほどビッシリと書き込まれた行事予定表に、朱書でこう記されている。

中央病院開設準備室主幹、菊池芳壽さん(51歳)。昨年10月末に完成した新しい中央病院への開設業務を担当している。

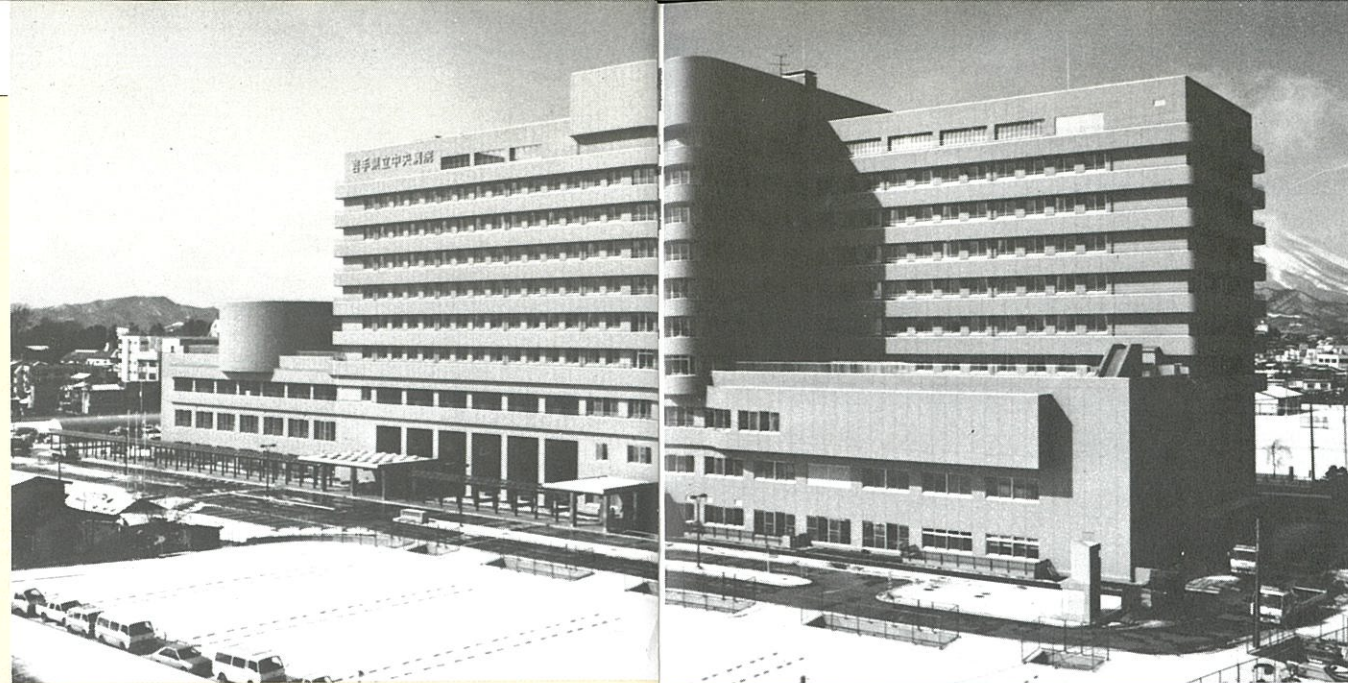
「3月3日に行う患者さんたちの移送が最も重点ですね。歩ける患者さんは大型バスで、総勢150人ほどの大移動になると思います」と話す。患者の移送には救急車10台とドクターズカーも使い、警察や交通指導隊、地域の人たちの全面的な協力を得て行うと言う。

現在の中央病院はベット数542床。新病院は730床、建物面積もおよそ3倍と、その規模もケタ違いだ。

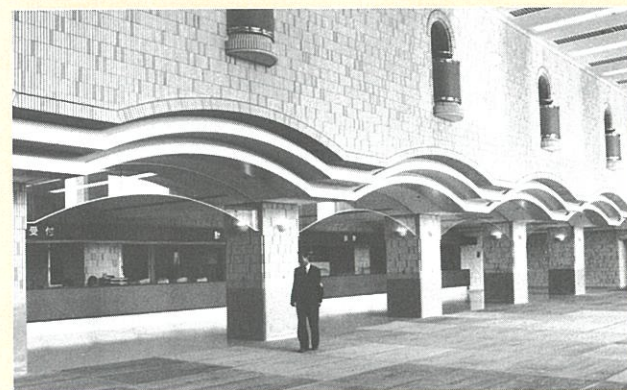
新しい中央病院には医療機器などを搬入するトラックが、連日入れ代わり立ち代わり続く。

菊池さんは県立病院の勤務が長いといっても、このような大規模な引っ越しは初めて。もちろん、中央病院の職員たちも例外ではない。職員たちは医療機器の操作研修、院内の施設、設備の確認を重ね、新しい病院での診療態勢に支障のないよう万全を期すため一丸となって取り組んでいる。

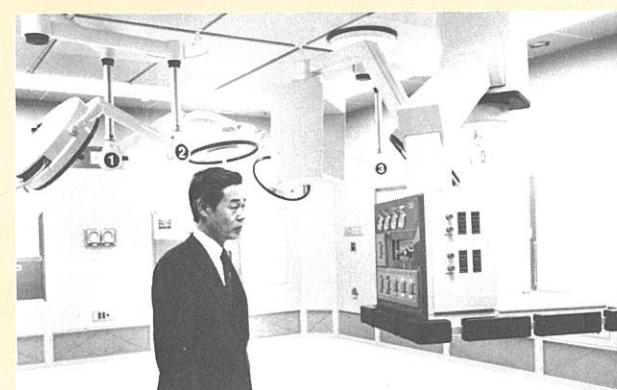
59年3月に着工以来、総事業費およそ166億円を要し、県営医療の重要な役目を果たす新県立中央病院は、昭和62年3月6日盛岡市上田に開院する。



3月6日開院する県立中央病院



中央ホール(1階)



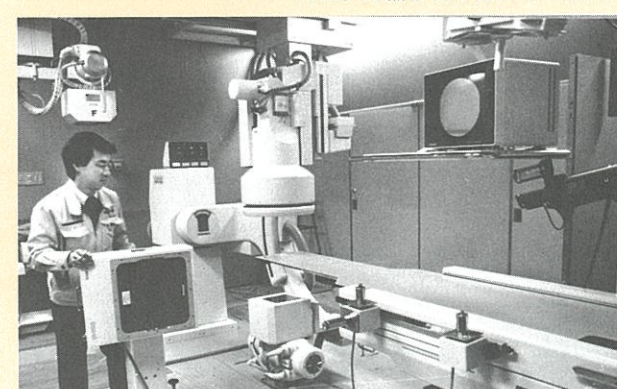
10室ある手術室のひとつ、無菌手術室。臓器移植手術などで使用



オープンになっているナースステーション



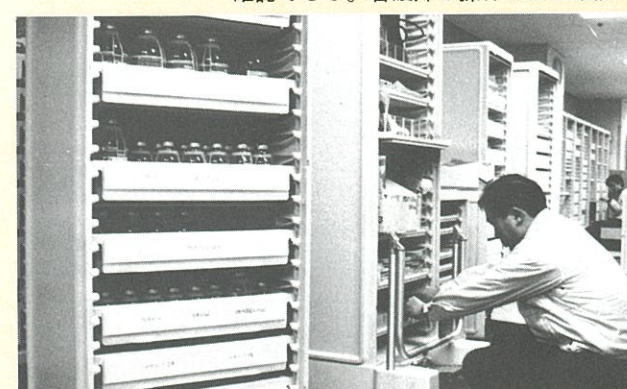
手術室10室のようすをモニターテレビで確認できる。看護婦も操作方法を確認



腹部血管撮影装置をセット



病床数は730床



薬品などを収納するユニセル。各診療科にワゴン搬送するシステム



各診療科の受付にセットした処方せんの電送処理システム。待ち時間解消策のひとつ



研究会場ともなる多目的大ホール

